

SCOUTING

2018
No.726
7



なろう。一人前に。
キャンペーン実施中



特集

いよいよ開催まであと1か月!

第17回

日本スカウトジャンボリー

清流の国ぎふ

平成30年度全国大会



CONTENTS

- 02 いよいよ開催まであと1か月!
第17回日本スカウトジャンボリー

- 06 ニッポン全国元気団紹介
愛媛県連盟 西条第6団

- 07 コラボレーションバッジ!
新チャレンジ章がさらに追加

- 08 「清流の国ぎふ」平成30年度全国大会

- 11 全国ローバースカウト会議
2018年度総会開催

- 12 日本連盟情報

- 12 スカウティングの知っててちょっと良い話(49)

- 13 信仰奨励

- 13 エッセイ

- 14 維持会員

- 14 今年もスカウトの日

- 15 野外活動のための安心・安全講座
たばこアルコールの危険

- 16 ローカルホットライン

- 17 日本連盟創立100周年に向けて
ボーイスカウト再興への道
シリーズ(4)日本連盟の収入と支出

- 20 スカウティングとウッドクラフト®
中野忠八「テント生活の仕方」と『ボーイスカウト
訓練の大綱』で読む
日本連盟創立直後のウッドクラフト教育

- 22 海での活動について
～海上保安庁からの3つのお願い～

- 24 スカウトショップ

17th

いよいよ
今月号では

NIPPON JAMBO

【会期】 2018(平成30)年8月4日(土)～10日(金)
 【会場】 石川県珠洲市蛸島町「^{たこじま}りふれっしゅ村 鉢ヶ崎」
 【テーマ】 「冒険 ～能登のチカラ未来へ～」

参加者

参加確定申込人数(2018.06.14現在)

国内のボーイスカウトとガールスカウトから約12,700人、外国参加者は12の国と地域から約600人、合計約13,300人の参加者となり、当初予定の13,000人を超えました。また、開催地の石川県や珠洲市の小学生が、日帰りでの体験参加を予定しています。

参加区分	ボーイ スカウト	ガール スカウト	参外 加者国	計	
参加隊	スカウト	9,129人	30人	456人	9,615人
	指導者	1,901人	8人	78人	1,987人
	計	11,030人	38人	534人	11,602人
大会運営スタッフ	1,526人	3人	45人	1,574人	
派遣団本部スタッフ	164人	0人	19人	183人	
人数計	12,717人	41人	598人	13,356人	
備考		5県連盟	12の国と地域		

参加予定の外国連盟/オーストラリア、台湾、香港、インド、インドネシア、韓国、マカオ、マレーシア、ネパール、フィリピン、イギリス、アメリカ



よ開催まであと1か月!

各種最新情報をお伝えします。

SCOUT REE



■ プログラム最新情報

モジュールプログラムへの参加

各サブキャンプの参加隊は、県連盟ごとに5つのグループに分け、割り当てられた5つのモジュールプログラムに半日単位で参加します。プログラムは班単位での参加で、最少5人、最多8人とし、4人を下回る場合はその場で臨時的混成班を編成します。



プログラムテーマ

- チームワーク
- カルチャー
- サバイバル
- マリン

サターンエリア

エリア概要 「ジャンボリーゲーム日本一」の種目を中心に、日々のスカウトスキルを活かしてプログラムに取り組みます。2020年の東京オリンピック開催を見据えたミニスポーツもエリア内で体験できます。

実施場所 / 多目的広場、野球場
参加方法 / 現地受付順
参加単位 / 班
見学・体験の可否 / 見学可能、一部体験可能



プログラムテーマ

- チームワーク
- カルチャー
- サバイバル
- マリン

ジュピターエリア

エリア概要 班対抗で競い合う種目を中心に、班の協力・連携を活かしてプログラムに取り組みます。地形を活かしたプログラムを用意しており、普段体験できないようなスケールのプログラムを体験できます。

実施場所 / 文藝館西、ジャンボリープラザ近く
参加方法 / 現地受付順
参加単位 / 班
見学・体験の可否 / 見学可能、一部体験可能



プログラムテーマ

- チームワーク
- カルチャー
- サバイバル
- マリン

アースエリア

エリア概要 「ジャンボリーゲーム日本一」の種目を含め、班の協力・連携を活かしてプログラムに取り組みます。苦手とらえられやすいスカウトスキルでも、協力することで楽しく競い合えることを体験できます。

実施場所 / テニスコート、グラウンドゴルフ場
参加方法 / 現地受付順
参加単位 / 班
見学・体験の可否 / 見学可能、一部体験可能



プログラムテーマ

- チームワーク
- カルチャー
- サバイバル
- マリン

ヴィーナスエリア

エリア概要 ジャンボリーの目的に賛同する企業や団体が提供するプログラムを中心に取り組みます。スカウトの興味や関心ごと、自分自身の将来を考えるきっかけになるさまざまなプログラムを体験できます。

実施場所 / わくわく夢らんど
参加方法 / 現地受付順
参加単位 / 班
見学・体験の可否 / 見学可能、体験可能



プログラムテーマ

- チームワーク
- カルチャー
- サバイバル
- マリン

マーキュリーエリア

エリア概要 会場の立地を活かした海と砂浜で展開するプログラムに取り組みます。ただ海で遊ぶだけでなく、スカウトスキルの活用や安全対策の重要性など、学びの要素を含めたプログラムを体験できます。

実施場所 / 鉢ヶ崎海水浴場
参加方法 / 現地受付順
参加単位 / 班
見学・体験の可否 / 見学可能、一部体験可能

エキスカージョンプログラムへの参加

バスを利用して会場から離れて、能登の自然や文化・技術などを学ぶ場外の有料プログラムで、希望者を対象とした事前申し込み制で8月6日と8日のみ実施します。



プログラムテーマ

- チームワーク
- カルチャー
- サバイバル
- マリン

エキスカージョンプログラム

エリア概要 開催地である能登半島の里山里海の魅力を知り、歴史や文化、生活習慣について学び、ジャンボリーをより楽しむことができます。その他、海上自衛艦乗船やマリンスポーツ体験も予定しています。

実施場所 / プログラムごとに異なる
参加方法 / 事前申し込み受付終了・当日不可
参加単位 / 班または隊 ※要指導者
見学・体験の可否 / 見学・体験不可

ジャンボリーゲーム日本一

18NSJ、19NSJに継続していくプログラムとして、「ジャンボリーゲーム日本一」を実施します。ジャンボリーゲーム日本一では、スカウトスキルを用いた次の4種類の班対抗ゲームを行い、日本一を決めます。成績優秀班を称え、閉会式前に表彰式を行い、特別な記章「ジャンボリーゲーム日本一章」を授与します。

通信 (手旗信号リレー)



手旗信号の受信と送信を駆使した班対抗のタイムトライアル伝言ゲーム

①班の代表は出題者から課題を受け取り、指定された「内容」を確認する。②代表は指定された内容を、手旗信号で次の班員へ送信する。③最後の班員が回答を受け取り次第、指定された「内容」を出題者に伝える。④制限時間15分以内で時間を競う。一文字間違えるごとに時間が加算される。

結索 (班旗立て)



与えられた資材で自分たちの班旗をできるかぎり高く掲げ、かつ自立させるゲーム

①直径5~10cm、長さ1.8~2mの竹や木材が混ぜておいてあり、自由に資材を確保する。②大会が用意する班旗棒に班旗と計測用のタコ糸を取りつける。③スタートの合図で、5~6mmのクレモナロープを用いて、適した結びを使って資材を結ぶ。④制限時間20分以内に高くかつ自立するように結索を行う。⑤タコ糸が地面に接したところに印をつける。⑥15秒自立後、安全のために班旗を下ろし、タコ糸の先端から印までを計測し高さを競う。

キャンピング (火起こし)



与えられた資材と条件の中で、素早く火を起こし、炎で竹ひごを焼き切るゲーム

①スタートの合図で薪組みと火起こしを開始。火をつけるスカウトは1人ずつとする。②薪組みは高さ30cmまで。その上約10cmの高さに渡した竹ひごを焼き切る。③支給するマッチは2本とし、1本追加することに30秒を加算する。④制限時間は20分。スタートの合図から、竹ひごを焼き切るまでの時間を競う。

コンパス (コンパスナビゲーション)



指示書に記された方位角に従い、ポイント(コーン)に進み、カードに書かれた文字を記録するゲーム

①スタートの合図で指示書に記された方位角に従い、ポイントに進み、文字を記録する。②その動作を指示書の枚数分繰り返す、文字を記録する。③記録した文字の正確性と所要時間で算出し、班員の合計得点を競う。

サブキャンプライフ

サブキャンプと担当ブロック、各県の配属

参加者は、6か所のサブキャンプに分かれて生活します。各サブキャンプはブロックの参加人数に応じた区画数に区分し、ブロック内の県連盟が主体となって運営します。

サブキャンプ	担当ブロック	区画数※①	参加隊人数※②
	県連盟		
アドベンチャー	関東	115区画	約4,130人
	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川、山梨、東京		
ブレバリー	北海道・東北	13区画	約440人
	北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島		
チャレンジ	中部	75区画	約2,800人
	新潟、富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、ガールスカウト		
ディスカバリー	近畿	62区画	約2,400人
	滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山、大阪		
エンデバー	中国・四国	18区画	約680人
	鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知		
フューチャー	九州・沖縄	17区画	約620人
	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄		

※① 6月14日現在 ※② 外国参加者を除く

期間中の配信

大会期間中の様子は、大会アプリ、日本連盟公式 SNS 等で発信していきます。また、開会式、閉会式等は生中継も計画中です。お楽しみに。



最新会場マップ

詳細や最新情報は大会ホームページ、大会アプリをご覧ください。

<https://www.scout.or.jp/17nsj/>

施設紹介・アイコン



アドベンチャー
ADVENTURE



エンデバー
ENDEAVOR



ブレバリー
BRAVERY



フューチャー
FUTURE



チャレンジ
CHALLENGE



ディスカバリー
DISCOVERY

成人生活エリア

今大会では、成人は各サブキャンプに分散して生活しますが、一部このエリアで生活します。

プログラム



アリーナ
ARENA



ヴィーナスエリア
VENUS AREA



ジャンボリー
スカウトセンター
JAMBOREE SCOUT
CENTER



サターンエリア
SATURN AREA



マーキュリーエリア
MERCURY AREA



各国連盟や都道府県連盟によるスカウト活動の紹介・展示をする予定です。



ジュピターエリア
JUPITER AREA



エクスカーション
プログラム
EXCURSION
PROGRAM



信仰奨励エリア
FAITH & BELIEFS



アースエリア
EARTH AREA




エクスカーションプログラムの
バス発着場です。



信仰と信条の実施場所として、各教宗派による展示や祈りの場を設けます。



生活施設

-  シャワー
SHOWER
-  トイレ
TOILET
-  水汲み場
WATER

大きな生活エリアごとに2つずつシャワーとトイレ、水汲み場があります。

大会施設・サービス

 大会本部
HEADQUARTERS

各部の本部や本部会議所を設置します。

 ジャンボリープラザ
JAMBOREE PLAZA

オフィシャルショップや一般売店などのエリアです。

 メディアセンター
MEDIA CENTER

各種報道やスカウト通信員が利用します。

 中央救護所
CENTRAL FIRST AID STATION

会場内で可能な限りの医療処置を行います。開設期間は8月3日～10日です。

 アリーナ救護所
ARENA FIRST AID STATION

全体行事日のみ開設します。

 本部食堂
STAFF RESTAURANT

大会運営スタッフの食堂です。

 見学者関連
VISITOR

見学者受付および休憩所です。

 シャトルバス発着場
BUS STOP

ニッポン全国 元気団 紹介

愛媛県連盟 西条第6団

四国の北西、道後温泉やみかんなどで有名な愛媛県。その東部、日本百名山の一つであり日本七霊山としても知られる石鎚山いしづちや、名水百選にも選ばれた「うちめき」と呼ばれる自噴水などで有名な西条市に、さまざまな新しい取り組みを行っている西条第6団がある。



ボーイスカウト活動 × 地域 × 英語

「ビーバーを育てる」 これが団の成長に

1958(昭和33)年、地元の商店主が中心となり発足した西条第6団。60年の歴史には良いときもあれば、悪いときもある。1988(昭和63)年、三谷前愛媛県連盟連盟長が西条市立神拝小学校に校長として赴任。当時、団は低迷気味で、ボーイ隊に5~6人のスカウトしかいなかった。この状況下、小学校の教員や退職者に呼びかけ、指導者になってくれる人を探した。そして1人の女性、伊藤先生が協力してくれることになり、ビーバー隊を発足。

その活動は、保護者や地域の関心を集め、安心して自分の子どもを活動に参加させることができると、口コミが広がった。徐々にスカウト数も増えていき、次の部門へと上進。次第に全部門のスカウト増加に繋がり、団は健全な状態へと生まれ変わっていった。



活動を通じて保護者の理解向上へ

ビーバー隊は現在もその役割は変わっていない。どの部門も不足はないが、特に多くのスカウトを獲得し、楽しい活動を行い、そしてカブ部門へと上進させていく役割を十分に果たす団の原動力となっている。隊では保護者に活動を見てもらうことは、スカウト運動の理解促進の一番の近道だと考えている。「怒らず、叱らず、褒めなさい」という、前述の伊藤前ビーバー隊長の方針は現隊長にも引き継がれている。

カブ隊では、活動中スカウトがお互いに譲れず、ぶつかり合うことがある。その場合、必

ず活動時間内にスカウトたちが互いに納得する決着をつけて家に帰しているそうだ。これはスカウト個人の成長はもちろん、保護者からの信頼にも繋がり、隊内でスカウト、保護者、指導者が強い絆で結ばれるという。

ボーイ隊は自転車で集合可能な場所をベースキャンプ地としている。しかしこの世代は学校行事、部活、塾で忙しい。そこで、キャンプには出入り自由の体制をとり、多くのスカウトが気軽に参加できる工夫をしている。

ベンチャーになると地区の仲間や大会なども上手に利用しながら活動している。ローバーは県外の大学へ進学するスカウトが多いが、帰省中に団や各隊へ積極的に奉仕をしてくれるそうだ。



学校や行政との連携

西条地区は市内の団だけで地区を編成しており、地区事務局は市の教育委員会の中にある。そのため、学校や行政と連携しており、主催行事で奉仕の機会をたくさんいただいたり、体験集会の案内を市内の全小中学校で一斉に配布してもらうことができる。そのうえ西条第6団では、団委員長が対象学区の校長をたびたび訪問し、スカウト運動の説明、活動への理解促進に努めている。

各種案内の問い合わせ先は市の教育委員会になっており、学校教育と社会教育の連携により、保護者の安心感は増しているとのこと。地区で開催する体験集会には参加者が50人を超えるときもある。

団での国際交流プログラム

西条第6団には特色ある国際交流プログラムが2つある。

1つは、国連本部での平和の鐘式典でおなじみのニューヨークの垂水ヴァイオリン財団とのコンサートの企画運営。来日するビーバーやカブスカウトと同年代のアメリカの生徒たちが県知事や市長へ表敬訪問するときに同行したり、コンサートでの案内係、英語での司会進行、ステージでの共演といった重要な役割をスカウトが担っている。

もう1つは、パリで創作活動をしている画家夫妻が個展を開くため来日するたび、絵画教室を開催してもらっていることだ。どちらも芸術と語学が融合した活動である。

このような活動は年齢が低いうちから取り組める国際交流であり、はじめは戸惑っているスカウトたちも、徐々に慣れていき、別れるときにはハグで挨拶するほどの関係になるそうだ。

他にもNPO法人との共催で市内の小中学生対象の英会話スピーチコンテストを開催しており、一般市民からも大きな関心をもたれる存在となっている。

このような国際交流はスカウト活動の魅力向上へと繋がり、新しいスカウトの獲得だけではなく、中途退団抑止にもなっている。

青年部門の強化を

今後は、ベンチャーやローバー部門の強化をより一層図っていきたくと団委員長は考えている。これからも多くのスカウトを育て、郷土に根ざした魅力ある活動を行っていきたくと、目を輝かせていた。



お話を伺った皆さま。和気あいあいとお話いただきました。

コラボレーションバッジ!

新チャレンジ章がさらに追加

企業や団体等とのタイアップによる新チャレンジ章に新たなテーマが登場します。



フォレストガーディアン

世界で最も厳しい森林認証を運営する FSC® とともに、FSC マークの製品を選ぶだけで森を守ることにつながることを子どもたちに知ってほしいという思いからこのバッジを作りました。

FSC マークの意味を学び、身の回りにある木製品や紙製品がどのように作られているかを意識して製品を選ぶことができるように、フォレストガーディアンに挑戦してください。

FSC ジャパン (日本森林管理協議会)

1994年に設立した、FSC 認証を運営する非営利組織 Forest Stewardship Council® (FSC) の日本事務局です。FSC 認証とは、環境・社会・経済の観点で適切に管理された森の木材から作られた製品であることを、FSC マークをつけて証明する仕組みです。

森の動物や植物、そこで働く人たち、暮らす人たちに配慮し、将来も豊かな自然を維持できるように森を管理しているか、その森の木材が製品になるまでの過程で、他の FSC が認めない木材が混ざらないように加工・流通されているかどうかを、国際的な厳しい基準で審査しています。

ボースカウトの活動のフィールドでもある森ですが、世界の天然林はさまざまに減少しています。毎日の買い物で世界の森林問題とつながっていること、森林破壊に加担しないために私たちが普段からできることを、子どもたちに伝えていくことが重要と考えています。



■ 団体担当者より

あまり知られていませんが、実は FSC マークは色々な製品についています。身の回りの FSC マークを探してフォレストガーディアンバッジを取得することで、普段使っている木製品や紙製品がどのような森の木材からつくられているのか考えるきっかけになれば嬉しく思います。

皆さんの活動の場となる森がいつまでも豊かであるように、みつけよう! 森を守るマーク。



7月21日～9月30日
FSC マークを多くの人に知ってもらうために「みつけよう。森を守るマーク。FSC フォレストウィーク2018」を開催します!

スケジュール

- サイト公開: 7月2日(月)
<https://www.scout.or.jp/cb/>
- 応募期間: 7月9日(月)～23日(月)
- 資材発送: 7月26日(木)から順次メールにて回答および資材の発送

その他のチャレンジ章や環境教育プログラムにも取り組んでみてください

今年度より新たに開始した企業や団体等とのタイアップによるチャレンジ章ですが、前号でお披露目したフィールドマスターとセーフティエキスパートの2種類については、予定数量を大幅に超えるお申し込みがありました。

今回の新しいチャレンジ章は、スカウトが新たな分野に興味をもつための、ひとつのきっかけです。この取り組みを活動に上手に組み込んでいただき、引き続き、既存の

チャレンジ章や世界スカウト機構が設定する環境教育プログラム「世界スカウト環境バッジ」への挑戦などにも関心が向くよう、スカウトをご指導ください。

世界スカウト環境バッジは、世界スカウト機構が定める要件を満たす環境プログラムを履修するか、または同等の教育効果をもつ選択課目を履修することで要件の一部を満たすことができます。

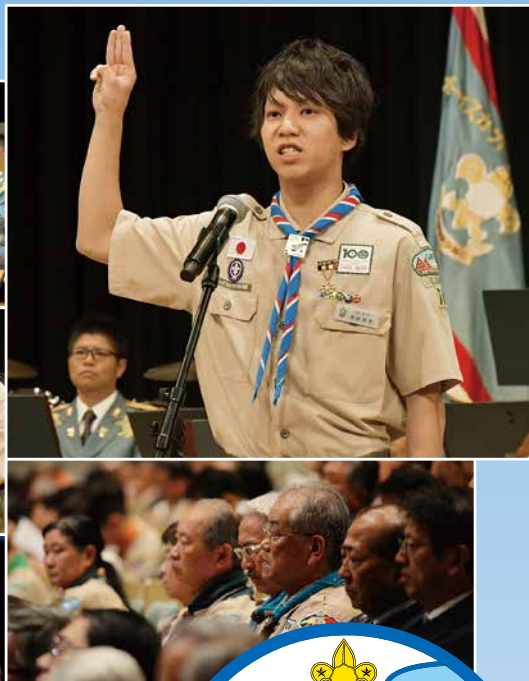


開会式

河合岐阜県副知事、柴橋岐阜市長、棚橋、渡辺、大野 BS 振興国会議員連盟会員、野島岐阜県議会副議長をはじめ、多くの来賓をお迎えして開会式を行いました。司会は岐阜県連盟美濃加茂第1団の高井ベンチャー隊長を務めていただきました。

奥島理事長の挨拶の後、河合岐阜県副知事の歓迎のご挨拶、そして地元選出の衆議院議員である棚橋 BS 振興国会議員連盟会員よりご挨拶をいただき、開会式後には、陸上自衛隊第10音楽隊の皆さんに演奏をしていただきました。

10頁に理事長挨拶掲載



「清流の国ぎふ」

平成30年度

全国大会

Creating a Better World

平成30年度の全国大会を岐阜市で開催しました。今年は過去最大の参加者960人を超える盛大な大会となったほか、開催県連盟である岐阜県連盟の事業として一般児童も交えた「ぎふわくわくポイントラリー」が併催されたため、スカウトの元気な姿も数多く見られました。来年度は鹿児島市で開催予定です。



日時 5月26日(土)～27日(日)
 場所 岐阜・長良川国際会議場 他
 参加者 969人
 主催 ボーイスカウト日本連盟
 開催県連盟 日本ボーイスカウト岐阜県連盟
 後援 岐阜県 / 岐阜県教育委員会 / 岐阜市 / 岐阜市教育委員会
 協力 陸上自衛隊第10音楽隊 / 岐阜県ユニセフ協会 / ガーバー・サカイ株式会社 / 株式会社マルエイ / 中部事務機株式会社 / テックミズノ株式会社 / 濃飛倉庫運輸株式会社



表彰式

開会式に続いて表彰式を行い、次のとおり各章をお贈りしました。

- (1) 人命救助章 / 1人
- (2) 公共奉仕綴 / 1隊
- (3) スカウティング褒章 / 1人
- (4) 褒状 / 1団、5人
- (5) 特別功績章 / 2人
- (6) 感謝盾 / 2人
- (7) 特別感謝章 / 1人
- (8) 日連感謝章 / 2人
- (9) 感謝状 / 6人、5企業・団体、1県連盟
- (10) きじ章 / 2人
- (11) たか章 / 25人
- (12) かつこう章 / 57人

【組織拡充顕彰】

- (1) 優良団 / 2団
- (2) スカウト加盟員数の増加 / 2県連盟
- (3) ビーバースカウト隊設置率 / 7県連盟
- (4) スカウト継続登録者率 / 2県連盟
- (5) 団数の増加 / 2県連盟





交歓会

交歓会は、逢沢 BS 振興国会議員連盟会長、古田岐阜県知事、金子 BS 振興国会議員連盟会員、泉谷珠洲市長、ハン・ゾンハン韓国連盟総裁、ス・テシャン台湾連盟事務総長をはじめ、多くの来賓を迎え、岐阜グランドホテルで開催しました。司会は愛知連盟西尾第6団の

澤ビーバー隊長に務めていただき、約400人にご参加いただきました。アトラクションの「もんでこ太鼓」が会場を賑わせ、交歓会の最後に、全国大会旗が木村岐阜県連盟理事長より、来年度開催県の稗田鹿兒島県連盟副理事長に手渡されました。

全国スカウト教育会議 (テーマ集会)

2日目に開催した全国スカウト教育会議(テーマ集会)では、各テーマで、内容の濃い意見交換が行われました。

- (1) スカウト増加のための団・隊の取り組み～団、隊での成功例から～
- (2) 「ボーイ隊のプログラム立案」と「BS・VS部門の見直し」
- (3) 国際活動サービスチーム集会和海外派遣報告会
- (4) 10万人のチカラを合わせスカウトの魅力を発信しよう(広報戦略)
- (5) ローバースカウト活動とRCJについて
- (6) 教育研究プロジェクト「スカウティングを科学する」
- (7) 指導者に必要なスキルとは～ウッドクラフトを通じて～
- (8) そなえよつねに～防災・減災の視点～
- (9) セーフ・フロム・ハーム(思いやりの心を育む教育)について
- (10) スカウト活動とアレルギー



スカウティング エキスポ2018

加盟員以外の一般市民へ本運動の理解を広めるとともに、指導者の研鑽の場、参加者との情報交換の場として開催したスカウティングエキスポ。37のブースには、アウトドアメーカーや地元の企業などにもご出展いただきました。

出展団体(順不同) 日本ボーイスカウト岐阜県連盟/ガーバー・サカイ(株)/株廣瀬商会/神奈川連盟RS年代/大阪連盟ユース会議/ボーイスカウト京都連盟・ガーナ派遣チーム/日本連盟24WSJ派遣実行委員会/日本連盟プログラム委員会/日本連盟社会連携・広報委員会/日本連盟医療チーム/岐阜北郵便局/ボーイスカウト愛知連盟 刈谷第11団/ボーイスカウト岐阜第8団/AUTHENTIC JAPAN(株)/キャンパルジャパン(株)/濃飛倉庫運輸(株)/RCJ Re:Quest実行委員会/福岡県連盟ローバースカウト/尾張東地区ローバースFRONTIER/尾張西地区ローバース軌跡/尾張南地区ローバース GreenBeret/全国ローバースカウト会議(RCJ)/愛知ローバース会議/埼玉県連盟ユース会議(SYC)/千葉県ローバース会議/岐阜県ユニセフ協会/スカウティング研究センター/スカウト教育研究プロジェクト(SERP)/ボーイスカウト石川県連盟/ボーイスカウトエンタープライズ/武魂盛隆士隊/日本独楽博物館/日本ボーイスカウトアマチュア無線クラブ/TEAM SCOUTBUCKS/日本薬育研究会/公益財団法人岡田茂吉美術文化財団(MOA 美術館)/早稲田大学ローバース O.B. 若獅子会/日本スカウト切手・メモリアクラブ/福沢第9団

関連会議

- 定時評議員会
／25日(金) 13:00～14:45
- 臨時理事会(第1回)
／25日(金) 15:00～15:30
- 臨時評議員会(第1回)
／25日(金) 16:00～16:45
- 日台韓首脳会議
／26日(土) 9:30～11:30
- 宗教関係者の会総会
／26日(土) 10:00～11:00
- 県連盟代表者会議(第1回)
／26日(土) 15:30～17:30
- 全国県連盟コミッショナー会議(第1回)
／26日(土) 15:30～17:30
- 全国ローパスカウト会議(RCJ)総会
／26日(土) 15:45～17:00

11頁にRCJ掲載



日本のボーイスカウト 「非常事態宣言」

理事長 奥島 孝康

昨年の全国大会で、私は「日本のボーイスカウトの非常事態宣言」をした。しかし、その後の推移をみると、その認識は甘すぎた。第23回世界スカウトジャンボリー(2015年)の3年後あたりからは日本のボーイスカウト人口は徐々に回復に向かうだろうという考えは見事はずれた。今年の全国大会で、私は再び「非常事態宣言」を繰り返した。その大要は、ほぼ以下のとおりである。

1. 生か死か?

いま日本のボーイスカウト運動は、世界のそれとは逆に、「生か死か」の瀬戸際に立たされている。長年にわたるウッドクラフトやパトローリングの軽視がスカウト運動を空洞化し、「ラーニング・バイ・ドゥーイング」の原則を無視しかねない日常活動になってしまった結果が、スカウト運動を衰退させたからである。また、スカウティングが運動であり、決して学問ではないことが忘れられたことも大きい。しかし、運動の理念は不滅である。

2. 信頼か不信か?

世界のスカウトが信頼の絆で結ばれていることは当然である。しかし、スカウト連盟のガバナンスも財政規律も適正かつ厳正でなければならない。だから、憲法は「不信の体系」である。つまり、ガバナンスも財政規律も、その適法・適正を確保するための厳しいチェック・システムを確立している。だから、スカウト運動のような公益性の高い組織・団体であればあるほど監視・監督の厳正さが要求される。スカウトの相互信頼はそれを前提とする。

3. 全力か余裕か?

「生か死か」が問われる現在、この問いは愚問である。高野連会長であった私がいま思い出すのは、岐阜商業高校の監督である鍛冶舎 巧氏(元パナソニック専務)の「そこそやるかそこまでやるか」という言葉である。誰しも、指導者であれば「そこそこ」任務を果たしているに違いない。しかし、誰もが「そこまで」全力を尽くしているであろうか。いまこそ我々にはそこが問われている。



全国ローバースカウト会議

2018年度総会開催

日 時 5月26日(土) 15:45～17:00
 場 所 岐阜・長良川国際会議場
 参加者 38県連盟代表スカウト38人(代理1人含む)、
 2017年度 RCJ 運営委員6人

議案

- 【第1号議案】
2017年度事業報告に関する件
- 【第2号議案】
全国ローバースカウト会議中長期計画に関する件
- 【第3号議案】
運営委員会の編成に関する件
- 【第4号議案】
2018年度事業計画に関する件

5月26日(土)に岐阜・長良川国際会議場にて、2018年度の全国ローバースカウト会議(RCJ)総会を開催し、各議案についてそれぞれ賛成多数で承認しました。

これまで各ブロックの代表委員6人と前年度留任枠2人の計8人で編成していた運営委員会は、業務の明確な分担や業務拡充を促すため、新たに4人の活動推進委員を設け、次のとおり2018年度RCJ運営委員会を編成しました。

2018年度 RCJ 運営委員会

- 議 長 木村 直登
 [前年度留任枠/東京・昭島第1団]
- 副議長 池田 章浩
 [前年度留任枠/愛知・名古屋第87団]
- 副議長 山路 卓
 [九州・沖縄ブロック/福岡・北九州第5団]
- 委 員 加藤 大貴
 [活動推進委員/岩手・盛岡第5団]
- 委 員 堀 秀慈
 [活動推進委員/東京・台東第4団]
- 委 員 長谷川 明里
 [活動推進委員/東京・多摩第3団]
- 委 員 中嶋 路央
 [活動推進委員/愛知・みよし第1団]
- 委 員 鈴木 隆大
 [北海道・東北ブロック/秋田・秋田第33団]
- 委 員 内田 椋太
 [関東ブロック/東京・杉並第3団]
- 委 員 三田 あかね
 [中部ブロック/静岡・三島第5団]
- 委 員 佐坂 美月
 [近畿ブロック/大阪・茨木第3団]
- 委 員 吉川 直希
 [中国・四国ブロック/愛媛・新居浜第2団]



議長挨拶



2018年度 RCJ 運営委員会の議長を拝命しました、東京連盟昭島第1団の木村直登です。RCJは2012年度に設立し、今年度で設立から7年目を迎え、新たなステップを踏み出そうとしています。今年度総会ではRCJ憲章の改定が可決され、個々のローバースカウトの活動を支援・推進する運営委員会の構成が変わりました。このほか、RCJ全体のVision、Mission、Valueや3か年目標の策定などが採択され、今後RCJが持続的に発展することが可能な組織となるための第一

歩を踏み出しました。

このような大切な節目での議長就任となり、身が引き締まる思いであります。

今年度の運営委員会では、全国のRCJ構成員が各々のローバリングのサポートとしてRCJを活用する、そのような環境を私たち運営委員が目指すよう、「使われるRCJを認知してもらう」というMissionを定めました。このMissionのもと、運営委員会と県代表で協力しながら尽力してまいります。

成人指導者の皆さん、未来の日本社会を担う私たちローバースカウトが、より成長し活発に活動を展開できるよう、今後ともRCJへのご理解とご協力をお願いいたします。

RCJ Re:Quest 開催

大和の森 高萩スカウトフィールドの開拓の一端を担うべく2016年度に開催した「RCクエスト」に次ぐ大会として、規模を拡大し内容を充実させて本大会を開催いたします。



期 間 8月23日(木)～26日(日) / 3泊4日

場 所 日本連盟・大和の森 高萩スカウトフィールド

テーマ Good Resolution



日本連盟情報 July 2018

6月上旬までの会議・研修など

4月

13日(金)～15日(日)

- 第24回世界スカウトジャンボリー派遣団長会議(第1回)

14日(土) ●指導者養成委員会(第1回)・ディレクター会議(第1回)合同会議

14日(土)～15日(日)

- 第17回日本スカウトジャンボリー売店専門部会(第2回)
- 「RCJ Re:Quest」実行委員会(第3回)

17日(火) ●第17回日本スカウトジャンボリー信仰奨励プログラム打ち合わせ会(第3回)

21日(土) ●第17回日本スカウトジャンボリー実行委員会(第11回)

22日(日) ●国際委員会(第1回)

- 共済運営委員会(第1回)

28日(土)～29日(日)

- 全国防災キャラバン2018(福井)

30日(月) ●「セーフ・フロム・ハーム」安全委員会(第1回)

5月

2日(火) ●財務委員会(第1回)

3日(木)～6日(日)

- ウッドバッジ実修所BVS第42期
- ウッドバッジ実修所CS第167期
- ウッドバッジ実修所BS第195期

5日(土) ●全国防災キャラバン2018(高知)

8日(火) ●運営会議(第2回)

- 理事会(第1回)

10日(木) ●スカウトと社会をつなぐ場所(第9回)

12日(土) ●プログラム委員会(第1回)

- 第17回日本スカウトジャンボリー輸送専門部会(臨時)

- 全国防災キャラバン2018キックオフイベント(広島)

13日(日) ●第17回日本スカウトジャンボリー配給・食堂専門部会(第6回)

19日(土) ●第17回日本スカウトジャンボリー安全・救護専門部会(第5回)

20日(日) ●第17回日本スカウトジャンボリープログラム専門部会(第6回)

25日(金) ●定時評議員会

- 臨時理事会(第1回)

- 臨時評議員会(第1回)

26日(土) ●県連盟代表者会議(第1回)

- 全国県連盟コミッショナー会議(第1回)

- 全国ローバースカウト会議(RCJ)総会

- 宗教関係者の会総会

26日(土)～27日(日)

- 平成30年度全国大会

27日(日) ●RCJ運営委員会(第1回)

31日(木) ●第17回日本スカウトジャンボリー信仰奨励プログラム打ち合わせ会(第4回)

6月

2日(土) ●第17回日本スカウトジャンボリー全体行事専門部会(第5回)

2日(土)～3日(日)

- 第17回日本スカウトジャンボリー総務専門部会(第4回)

5日(火) ●運営会議(第3回)

6日(水) ●財務委員会(第2回)

6日(水)～10日(日)

- 副リーダーートレーナーコース第62期

9日(土) ●第17回日本スカウトジャンボリー売店専門部会(第3回)

- 第17回日本スカウトジャンボリー輸送専門部会(第4回)

10日(日) ●スカウト教育推進会議(第1回)

- 共済運営委員会(第2回)

- 全国防災キャラバン2018(秋田)

スカウティングの 知っててちょっと良い話 No.49

ボーイスカウト日本連盟 前事務局長 吉田 俊仁

ボーイスカウトと海洋少年団との歴史的関係について

いよいよ17NSJが始まりますね。今回のジャンボリーでは、いろいろな海の活動プログラム(Sea Scouting)があり、すばらしい大会になると思います。今回はボーイスカウトと海洋少年団についてです。

B-Pがブラウンシー島での実験キャンプを行ったとき、ボートを使ったゲームや鯨獲りゲーム等の海のプログラムがありました。B-Pは子どものころから海への憧れがあり、「スカウティング フォア ボイズ」の序文にも、「少年のころいちばん楽しかったのは、4人の兄弟といっしょに海洋スカウトになって、イングランドの沿岸をあちこち旅した時だ。私たちは正式な海洋スカウトだったわけではない。しかし、私たちは自分の帆船を持っていて、四季を通じてどんな天候の時でもその船で生活もし、航海もし、苦しい時も楽しい時もあったが、おしなべていえずばらしい愉快的な時を過ごした」と述べています。

1909年、英国連盟は陸のキャンプ場に加え、宿泊や活動のための練習船マーキュリーを用意しました。これがシースカウトの始まりです。1910年、B-Pの兄で、海軍のワリントンが『Sea Scouting and Seamanship for Boys』を著しました。日本におけるシースカウトの発想は、乃木希典学習院院長の神奈川県片瀬海岸での夏期キャンプや小柴博による東京少年団での千葉県勝浦海岸での「臨海水泳団」のキャンプに見ることができます。そして1924年12月7日、東京連合少年団のきもいりで、選抜された50人のスカウトを訓練して大日本東京海洋少年団の結成式を行いました。これが、我が国シースカウトの始まりで

す。そして、少年団日本連盟では、1925年3月開催の理事会において、連盟に海洋健児部を設置することが決定されました。日本連盟は海洋指導者実修所(原道太所長)等を実施し、1929年北海道帝国大学から借用していた帆船、忍路丸おしのろまるの正式な払い下げを受け、これを改造して義勇和爾丸よゆうわにまると改称しました。同船は、1930年5月、天皇陛下が静岡岡原に幸せられる際、お召船として使用。また、日本連盟は1934年、278トンのこの船に235馬力のエンジンを搭載し、原道太を団長として1万2千海里、3か月半の南洋遠航を実施しました。その後、軍部の要請等もあったのか1938年3月をもって海洋部が独立分離し、同年4月、大日本海洋少年団が発足し、初代総長には大日本少年団連盟の竹下勇海軍大将(日本連盟第3代総長)が就任して新たなスタートをきったのです。戦後、ボーイスカウト日本連盟にはシースカウトやエアースカウトを設置する考えがあり続けましたが、実際にシースカウトを展開した団は極めて少なかったのです。その一方で、海上保安庁の支援を受けた日本海洋少年団連盟が発足し、現在公益社団法人となって、「しつけは訓練の基本」という考えのもと、幼稚園児から高校生までの少年少女に対し、海洋に親しむ機会を与え健全な育成を図る活動を行う団体として活動しています。「海に親しみ、海に学び、海にきたえること」をモットーに、2つの「ちかい」と10の「やくそく」の実践に励んでいます。(参考資料:『海洋少年団の組織と活動』圓入智仁著、『少年団研究』、『日本ボーイスカウト運動史』)

お知らせ: 本稿は、次回の第50回をもって連載を終了いたします。次号の最終回にご期待ください。

潮の流れ～[溺れる者は藁をも掴む]



私が小学3年の夏休み、近くの海水浴場で父から海での泳ぎ方を教わったことがある。私自身は同学年の友人たちとの川遊びや学校のプールでの学習などで、犬かき、立ち泳ぎ、そして平泳ぎやクロールなどをそれなりに習得していた。

しかし父の泳ぎは私が初めて見る「変な泳ぎ方」をしていたので「それな～に?」と質問すると、「これは古式泳法といって利き腕片手と両足だけで横になって泳ぐ方法で、もうひとつの手は気を失った人のあたまの後頭部を支えて呼吸をさせるために使う泳ぎ方だよ」と話したあと、「孝志、溺れている人を助けるときには絶対にその人の前から手を差し出してはダメだよ。[溺れる者は藁をも掴む]という、溺れている人に抱きつかれたらお前も泳げなくなり、一緒に溺れてしまうからね。溺れている人を助けるときは後ろから片手で支えなきゃダメだよ」と教えてくれた。聞けば、父が戦前19～20歳の頃の陸軍航空隊の訓練での経験で、洋上で撃墜されたときの仲間を助けるために学んだ救助・古式泳法とのことだった。

時が過ぎ、私の娘が5歳の夏の日、私たち家族3人と知人たち計8人で友人の大きなクルーザーで外洋に出て、とある磯場近くでアンカーを下ろし釣りや船の周りで海水浴を楽しんでいた。

しばらくして、娘の丸いスイカ模様のビーチボールが風に飛ばされ海に落ちた。それを見ていた釣りをしていた知人が「オレが取ってくるよッ!」と釣り竿を隣の友人に託し、いきなり海へ飛び込みクロールでビーチボールへ向かって泳ぎ始めた。ところが風と外洋の潮に流されボールはみるみるうちに船から40～50m流され、私はその流れに不安と胸騒ぎを感じ「危ないからボール取らなくてイイよお～」と泳ぐ友人に向かって大声で叫んだ。そのとき友人が「ああッ

足がツツたあア～!!」と叫びながらみるみるうちに潮に流され始めた。

すかさず私は船長にエンジンをかけさせ「船を回して!」と叫びながら、舳先へと走りアンカーの鎖を両手で渾身の力を込めて引き上げた。見れば友人は船から後方へ60mほど流され悲鳴を上げていた。

船を回し、流される友人に30mほど近づいた所でアップアップと海水に溺れてゆく友人に危機感を覚え、船上の友人にオレンジ色の救命用の浮き輪とロープを託して私は海へ飛び込んだ。

そのとき父の声「溺れる者は藁をも掴む」という言葉が脳裏に浮かんだ。

20mをクロールで泳ぎながら「前から行くな、後ろからつかまえる」という父の言葉を思い出し、冷静に4～5m近くで平泳ぎに変え、後ろから友人の左脇に私の左手を差し込み体を支え、右手で彼の右肩を抑え振り向かせせまいようにして、「もう大丈夫!もう大丈夫だから!」と何度も声をかけ続けた。

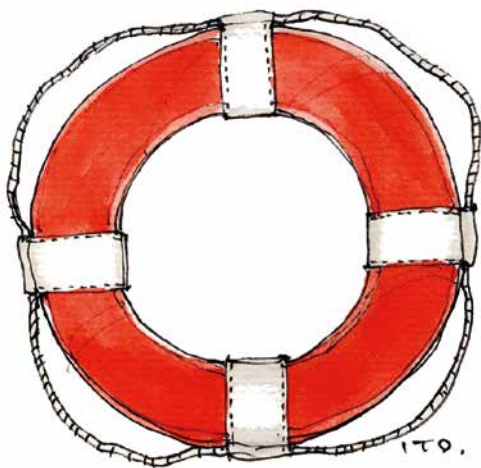
最初、差し込まれた私の左腕をこれでもかという力で掴んでいた彼は、私の声に少し安心したのか、しばらくして彼の右腕の指の握力が和らいだ。それでも両手で支えながらの立ち泳ぎは大変で、10m近くにたどり着いた船の仲間らに救命用浮き輪を早く投げろと大声で叫んだ。しかしあわてて投げた浮き輪はコントロールが悪く、我々は5mばかり浮き輪へ向かって泳ぐハメになり、そのとき父から教わった救助・古式泳法にて左手を彼の左脇に入れたまま泳ぎ浮き輪にたどり着いたのである。

ところがよほど慌てたのか、救命用浮き輪にはロープが結ばれてなく、またしても古式泳法で船尾へ泳ぐハメになり、回り込んで後部デッキから彼を数人で持ち上げるとき、彼の体はとても冷たく瀕死の状態だったのだ。

なにはともあれ、小学3年の夏休みにたった一度の父との海水浴のときに交わした言葉が尊い命を救うことにこんなにも役にたったこと、その「教え」に驚き、そして心から感謝したのであった。

もちろんその「父からの学び」を娘に伝えたのはいうまでもない。

[溺れる者は藁をも掴む]「前から行くな、後ろからつかまえる」と。



イラスト&文：伊東孝志

いとたかし/南国・無人島へのシーカヤック放浪旅をこよなく愛する、奄美大島生まれの小学56年生。ヤドカリを人生の師と仰ぎ、筆先に北斎を見つめ、水彩の楽描(らくがき)を糧として、奄美・沖縄～東京を拠点にアウトドアライフな、古今東西南北の日々を漂流する。

●伊東孝志ブログ「道草楽描/みちくさらくがき」～<http://michikusa-rakugaki.blogspot.com/>

信仰奨励

「二度とない人生だから」こそ!!

信仰奨励委員会委員長 村上 智真

二度とない人生だから、一輪の花にも無限の愛をそそいでゆこう。一羽の鳥の声にも、無心の耳をかたむけてゆこう。

二度とない人生だから、一匹のこおろぎでも、ふみころさないように、こころしてゆこう。どんなにかよるこぶことだろう。

二度とない人生だから、一ぺんでも多く便りをしよう。返事は必ず書くことにしよう。

二度とない人生だから、まず一番身近な者たちに、できるだけのことをしよう。貧しいけれど、こころ豊かに接してゆこう。

二度とない人生だから、つゆぐさのつゆにも、めぐりあいのふしぎを思い、足をとどめてみつめてゆこう。

二度とない人生だから、のぼる日しずむ日、まるい月、かけてゆく月、四季それぞれの星々の光にふれて、わがこころをあらいきよめてゆこう。

〈坂村真民詩集から〉

※句読点は筆者による追記

私がローバースカウトになったばかりの春、本屋さんでなにげなく手にしたこの詩に釘付けになった思い出は、今も鮮明です。この詩に記されていることは、当時18歳の私には、スカウトの「ちかいとおきて」の実践例のひとつを平易に指摘されている、と共感、感銘したからです。「二度とない人生だからこそ」こんな生き方をしようではないか、と真民先生は誰にでも解りやすい言葉でその行動を示し促されていました。

私の寺報の創刊号にこの詩を転載させていただきたいと熱望し、さっそく、先生にお電話しました。以後、亡くなられるまでお手紙と「詩國」と名付けられた詩集誌を毎月、送っていただきました。

信仰を促す場は、活動のいたるところにあります。野営のときだけでなく、日常のスカウト活動に「営火」をもっと活用したいものです。キャンプ生活には、毎晩、ほだ火を囲む場をもちます。「大営火」ばかりをスカウト活動のプログラムと思いついていないでしょうか。私は「営火」は指導者とスカウトのカウンセリングの場、宗教心を醸成する場だと思います。スカウト活動に信仰を重要視するのは、人間としてかけがえのない「尊いいのち」をいただいた喜びを見失ってはならないからです。仏・神の教えに聞き、学ぶことなくして気づかない私たちだからです。

維持会員 (敬称略) スカウト運動を財政面からご支援いただいている個人・法人会員の皆さまです。

ご支援ありがとうございます 2018年 3~4月度

- 【青森】 黒川 浩美 柳下 裕明
- 近藤 勝英 田中 斉 境 紳隆
- 【岩手】 中丸 光伸 砂原 肇
- 内宮 眞 平田 玲子 中山 勝博
- 沼宮内 拓哉 海老坪 聡 上倉 哲夫
- 向井田 敏宏 小西 章夫 中鶴 英昭
- 【秋田】 大作 寛 中川 和之
- 吉田 司 片平 紀行 京増 敏彦
- 【茨城】 小川 浩一 小池 佑利
- 橋本 千代寿 磯村 宏 小山 貴司
- 若山 藤男 松丸 浩房 坂本 正志
- 【栃木】 押樋 芳広 小森 博行
- B S 小 山 5 青山 浩志 大津 省一
- 【群馬】 越森 誠 山下 有三
- 吉田 稔 廣瀬建築研究所 河野 正明
- 碓井 健文 (株)アサヒパッケージ B S 横浜 1 3 1
- アラム ルストム B S 横浜 7 4
- 【神奈川】 須賀 昭子 鈴木 令子 B S 川崎 4 3
- 小堀 剛 佐野 友保 B S 相模原 7
- B S 高崎 1 8 須藤 守之
- 【群馬】 小野 康雄 内田 稔
- (株)グンケイ 加藤 雅夫 松浦 克昌
- 【埼玉】 織田 弘幸 吉田 良文
- 鈴木 俊明 安藤 正紀 中山 道則
- 斎藤 政之 足利 靖之 白倉 栄太郎
- B S 蓮 田 3 白倉 栄太郎 安部 徹
- B S 幸 手 1 川合 逸平 佐藤 憲弘
- B S 上 尾 9 安部 俱也 白川 雅之
- BS埼玉県育成会 太田 勉 高塚 正和
- 【千葉】 寺口 伸夫 指田 守昭
- 菊地 康介 遠藤 直樹 重信 千春
- 立川 征彦 小澤 寛樹 西澤 正之
- 森屋 啓 清水 隆之 金澤 幸彦
- 高崎 久志 下田 正昭 原 和彦
- 伊藤 知 亀田 幸成 柿沼 保則

- 一 柳 憲 正 BS 揖斐 1 育成会
- 菅原 雅雄 大野 印刷所
- 大石 和夫 (株) R A K U
- 飯原 忠一 (株) 丸栄カーライフ
- 鈴木 俊憲 リンナイ(株)
- 横山 和久 岐阜営業所
- B S 大 田 3 濃飛倉庫運輸(株)
- B S 町 田 6 (株) アサヒ繊維工業(株)
- 圓 成 寺 藤田自動車
- (株)立川印刷所 藤田 伸治
- 【新潟】 丸山 光雄
- 吉田 至夫
- 【富山】 手井 博史
- 森田 久信
- 荒田 正信
- 【福井】 陶山 治男
- 笠嶋 義憲
- 山崎 幸夫
- 戸田 武憲
- 前田 健一
- 柿畑 桂子
- 高芝 和彦
- 藪内 正夫
- 鹿ノ内 秀秀
- 酒井 善秀
- 水野 比佐
- B S 坂 井 5
- 【長野】 BS 飯田 1 育成会
- 【岐阜】 杉原 勝治
- 工藤 琢也
- 高橋 泰文
- 大野 弘智
- 戸田 正明
- 平野 尚司
- B S 富 士 8
- B S 吉 田 2
- 世界救世教
- スカウト協議会
- (株)エフ・シー・エス
- (株) S リ ー ス
- 【愛知】 奥村 悠二
- 加藤 隆
- 内藤 吉文
- 武田 正典
- 石川 剛久
- 早川 栄
- 山崎 義和
- 水野 廣行
- 横井 修嗣
- 鷓鴣 ひで子
- BS 名古屋 1 2 1
- B S 半 田 1 1
- B S 名 古 屋 1 9
- BS 稲沢 6
- 国府宮スカウト育成会
- BS 豊橋 1 2 育成会
- BS 西尾 1 2 育成会
- BS 半田 4 育成会
- 中京大ローパス
- 滝克己
- 【三重】 田中 伸二
- BS 伊賀 1 育成会
- 【京都】 橋 重十九
- 熊井 猛浩
- 中井 敬二
- 【兵庫】 中井 昌行
- 池田 昌行
- 田中 高橋
- 保夫 正幸
- 森本 正彦
- 【山口】 岸村 正昭
- 【香川】 辰野 恵一
- 【愛媛】 龍田 純孝
- 藤岡 一弥
- BS 愛媛県連盟
- えひめスカウトクラブ
- 【福岡】 高橋 満広
- 森永 信一路
- 長尾 時寛
- 阿部 智起
- 藤田 俊郎
- 高瀬 勲
- 小川 栄一
- 【鳥取】 鍋山 千恵
- 原 雄一
- 小河 之子
- 濱田 義行
- 御田 良知
- 城戸 高弘
- 塩川 浩史
- 小田 房江
- B S 福 岡 1 4
- BS 那珂川 1 育成会
- 【熊本】 濱田 智海
- 永田 英樹
- 緒方 圭治
- 濱田 まり子
- 【日本】 和田 勝久
- 杉本 忠重
- 大山 久
- 渋谷 茂光
- 金子 正之
- (株)ルディックススポーツ
- コンシダレット(株)

マンスリーサポート維持会員

毎月1,000円から、クレジットカードでの自動引き落としによる維持会費のお支払いが可能です。

<https://www.scout.or.jp/kifu/index.html>

3~4月に入会または1年継続された方々です。

【埼玉】 嶋村 和則	【東京】 村山 正	【奈良】 城戸 琢磨
【千葉】 田中 斉	石井 琢磨	【福岡】 永尾 眞介
【山梨】 藤森 静男	【兵庫】 藤原 健資	【日本】 清水 美保

今年も / スカウトの日 / 地球大好き! ~ I Love the Earth. ~

今年も「スカウトの日」が全国各地で行われます。これは、さまざまな活動を全国で一斉に行い、スカウト運動が地域社会に根ざした実践活動であることを広く社会に知ってもらうことを目的としています。そして、今、かけがえのない私たちの地球を守っていくために、スカウト1人ひとりができることを自ら考え行動することが求められています。それぞれの生活を振り返り、人、自然、社会のために自分ができることは何か、スカウトとして何が

できるか。スカウトのスローガンである「日日の善行」をもう一度考え、私たちの未来に向けて、自分たちにできる身近なことから始めていきましょう。今年も活動資材を準備しており、ウェブからお申し込みいただけます。申し込み期間を設けておりますので、各団で参加人数等を取りまとめて、特設サイト (<http://scout-project.jp/>) からお申し込みください。なお、活動資材申し込みをしない団も、ぜひ「スカウトの日」にご参加ください。



平成30年度 「スカウトの日」 バッジデザインが 決定しました!

千葉県連盟千葉第1団カブ隊 岩本さくのさんの作品
※ 作品は制作者の了承を得て、一部修整いたします。

今年もたくさんご応募いただきました。ありがとうございます。



実施日 / 平成30年9月17日(月・祝)
主催 / 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
後援 / 文部科学省、厚生労働省、環境省(予定)
協賛 / 一般財団法人セブン-イレブン記念財団
申し込み / 活動資材の申し込みは、7月12日(木)18時まで
写真: 昨年の活動の様子 [環境保全・アレチウリ駆除(東京連盟 狛江第1団)]

■ 野外活動のための安心・安全講座

たばことアルコールの危険

1. はじめに

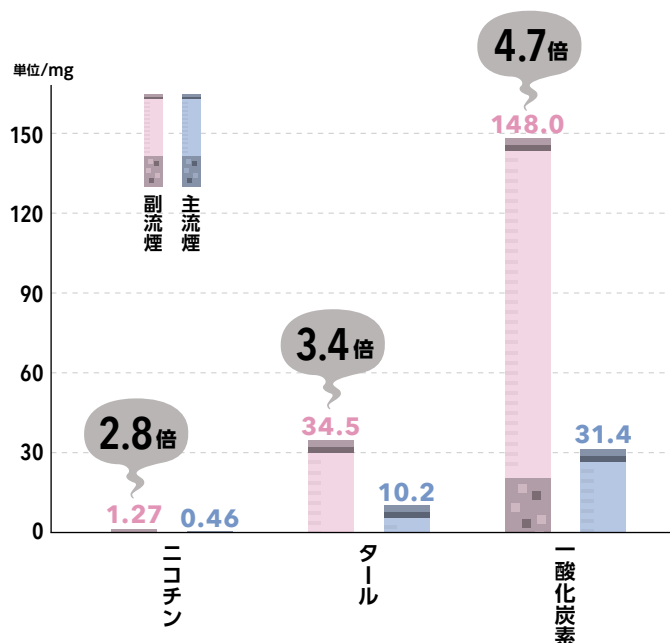
セーフ・フロム・ハームの導入により、指導者には飲酒、喫煙について正しいマナーが求められるようになりましたが、今回は、喫煙(たばこ)と飲酒(アルコール)がスカウトたちにどのような影響を与えるのかについて、お話しします。

2. たばこの悪影響

たばこが健康に良くないことは、多くの方がご存知でしょうが、たばこの煙には200種類以上の有害物質が含まれており、依存性の強いニコチンのほかにも、タール、一酸化炭素など50種類以上の発がん性物質が含まれているといわれています。

このため、自分の意思とは関係なくたばこの煙を吸う「受動喫煙」は、たばこを吸わない人をがんや脳卒中、心筋梗塞、呼吸器疾患などの危険にさらすことになります。

下の図は、たばこの煙の中でたばこを吸う人がたばこ自体やフィルターを通過して吸い込む「主流煙」と、火のついたたばこの先から立ち上る「副流煙」の有害物質の比較表です(厚生労働省「喫煙と健康」第2版より作図)。副流煙には、主流煙に比べてニコチンが2.8倍、タールが3.4倍、一酸化炭素が4.7倍も含まれています。



受動喫煙が周囲の人に多くの害を及ぼすことから、今日では裁判所でも損害賠償責任を認めたり¹⁾、健康増進促進法が定められ、受動喫煙の防止に努めることまで要求されたりしています。

指導者が喫煙する場合、スカウトの前で喫煙することは厳に慎まなければなりません。

3. スカウト年代はアルコールの害を受けやすい

厚生労働省では、数年ごとに中学生や高校生の飲酒実態の調査を行っています。男女を問わず学年が上がるに従って飲酒している率が増

える傾向にあり、高校3年生では男子14.5%、女子16.7%が1か月に1回以上の飲酒経験があるといわれています。

未成年者へのアルコールの悪影響としては、おおむね以下のようなものがあります(国税庁HPによる)。



身体的な影響

- 脳の機能低下
- 性腺機能障害
- 急性アルコール中毒
- 肝臓障害
- すい臓障害



精神面における影響

- アルコール依存症
- 学習意欲低下
- 未来思考・展望の喪失
- 精神的・心理的発達の停止
- 怒りっぽく、自己中心的に



社会性への影響

- 職場不順応
- 怠学・成績不振・中退
- 飲酒運転による事故
- 暴力行為や性犯罪
- 金銭トラブル

この中でも、特にスカウトたちのような脳が成長している時期にお酒を飲むと、脳の神経細胞を破壊し、脳萎縮を早くもたらす危険があり、また、第二次性徴を遅らせる「性腺機能障害」が生じる危険性があるともいわれています。

日本人の大人の中には、未成年者の飲酒について寛大な意見をもっている人もいますが、どんな理由があっても未成年者の飲酒が法律で禁止されていることに変わりはありません。

4. B-Pと喫煙(たばこ)、飲酒(アルコール)

ボーイスカウト運動の創始者であるB-Pも『スカウティング フォア ボーイズ』「キャンプファイア物語 18 体を丈夫にする習慣」の中で喫煙(たばこ)、飲酒(アルコール)については、以下のように述べています。「スカウトは成長期の少年の間はたばこを吸わないのだ」「酒を飲む人は、それだけでスカウトにはなれない。最初から酒を遠ざけ、飲まない決心をしまえ」

5. 最後に

喫煙することがスカウトたちの成長に悪影響があること、飲酒をすることがスカウト活動の中では禁止されていること、スカウトの喫煙、飲酒も指導者の喫煙、飲酒も、いずれも止められるのは指導者しかいないということを肝に銘じて活動するようにしてください。

「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会

1) 名古屋地方裁判所 平成24年12月13日判決

ローカルホットライン

Local Hot Line

団・地区・都道府県連盟だより

- ……団
- ☒……地区
- ……都道府県連盟
- ◇……その他

東京 □ キッズ防災チャレンジ

府中第1団 団委員長 飯原 忠一

過去の災害の教訓を忘れず、いざというときに慌てないためには、日ごろの防災意識と「知識・技術」が大切です。まさに「そなえよ、つねに」です。

私たち東京連盟府中第1団では3月25日(日)、市内にある都立公園主催の「キッズ防災チャレンジ」に協力し、PRを行いました。当日は満開の桜を見るため多くの市民が訪れていましたが、防災知識クイズや身近なもので作れるスリッパなどの防災工作、そしてボーイスカウトならではの「いざというときに役立つロープワーク」などを親子連れに紹介しました。

すべてのコーナーを攻略した子

どもたちには「子ども防災博士認定証」と記念メダルを渡しました。好天も手伝って多くの方の参加があり、防災知識だけでなくスカウト活動の一端を紹介できたと思います。当日の様子は読売新聞にも紹介されました。

今後も都の公園などと協力し、このような企画に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

ゲームで防災学習 子どもたちが歓声 府中

子どもたちに防災意識を高めてもらおうと、府中の森公園(府中市浅間町)で25日、「キッズ防災チャレンジ」が開催され、小学生らが楽しみながら防災への理解を深めた。

イベントでは、災害時の救助活動に役立てるためにロープに結び目を作る「ロープワーク」や、新聞紙でスリッパや食器を作る体験

などができる「防災ゲーム」を5種類用意。同公園サービスマンや、ボーイスカウトのメンバークラスから説明を受けた子どもたちは、歓声を上げながらゲームを楽しんでいた。

5種類の防災ゲームに参加すると、「子ども防災博士認定証」と記念メダルがもらえ、東村山市から父親と訪れた小学3年生の岩本正弘君(9)は「ロープの使い方など、普段学べないことが体験できて楽しかった」と、メダルを手に笑顔を見せていた。



ロープの結び方の説明を聞く子どもたち

読売新聞(2018.3.26)

愛知 □ 陸前高田市「桜ライン311」桜苗木の植樹

名古屋第8団 ボーイ隊長 田辺 美佐子



2011年3月11日に東日本大震災で陸前高田市を襲った津波の到達地点をラインにし、全長170kmを桜並木にして後世に伝える事業に参加させていただきました。

地元ライオンズクラブからお話があり、名古屋第8団、31団、116団のBS隊からスカウト各2人、指導者各1人が3月23日(金)～25日(日)に陸前高田市に伺い、全国から集まった総勢140人の参加者で植樹をしました。植樹後は被災地の現在を見学。広大な土地は瓦礫撤去

が進み、整地こそされていましたが何もなく、ところどころに残された被災建築物が見えるだけで、ダンプカーが往来していました。参加スカウトは、完全な復興にはまだ遠いことを目の当たりにし、帰着後には自分たちが見聞きた現状を他のスカウトたちに伝えていました。

当団では募金のほか陸前高田市図書館ゆめプロジェクトに参加し、新たな書籍の購入資金源にするための古本集めに協力しました。図書館は、昨年無事に完成したそうです。

京都 ■ 京都連盟 連盟長推戴式

日本ボーイスカウト京都連盟事務局

日本ボーイスカウト京都連盟は、からすま京都ホテルにおいて5月20日(日)に平成30年度年次総会を行いました。年次総会では、16年間にわたり連盟長を務めていただいていた前京都府知事の山田啓二様が知事を退任されたことに伴い、新しく知事に就任された西脇隆俊様の連盟長推戴が提案され、承認されました。

さっそく、年次総会後に推戴式を行いました。西村伸次理事長から推戴状をお渡しし、京都連盟のネッカチー

フを着用してご挨拶をしていただきました。

その後、連盟長最初のお役目として、前連盟長の山田啓二様、日本連盟相談役の荒尾雅也様をはじめ、6人の方へのスカウティング褒章プレゼンターをしていただきました。

このほか、ボーイスカウト振興国会議員連盟表彰を田中英之衆議院議員から、京都第19団の長谷川博昭ベンチャー隊長へ授与していただきました。





1922 - 2022

日本連盟創立100周年に向けて ボーイスカウト再興への道



シリーズ(4) 日本連盟の収入と支出

今回は、財政改善のさまざまな取り組み課題があるなか、財政を支える最も大きな力は加盟員を増やすことであり、また加盟員増こそがこの運動の再興である、というようなことをお伝えしました。今回は改めて「現在日本連盟に入ってくるお金と出ていくお金はそれぞれどうなっているのか」という視点から、2017(平成29)年度の収支決算を少し詳しく見てまいりたいと思います。

【財政概況】

日本連盟の財政は会費、事業収益、寄付金などの収入に支えられており、これらを元にさまざまな教育事業、普及広報、指導者養成事業などを展開しています。ジャンボリーのようなビッグイベントがなかった2017年度においては、収入総額約8億4千6百万円という規模でした。

日本連盟は公益財団法人ですので、基本的には年度ごとに黒字や赤字のないよう収支相償の運営を志していますが、2017年度は約5千万円の赤字決算となっています。もちろん収支ともにさまざまな要素が積み重なった総額ですが、収入の大きな割合を会費が占めるなか、会員減少が続いていることが根本的な課題となっていることは前号でお伝えしたとおりです。これを回復すべく、さまざまな支出の見直し、広報、収入の増強等に精力的に取り組んでいくこととしていますが、まずは収支の現状を掌握するため、単年度の収入と支出のそれぞれを少し詳しくご説明します。

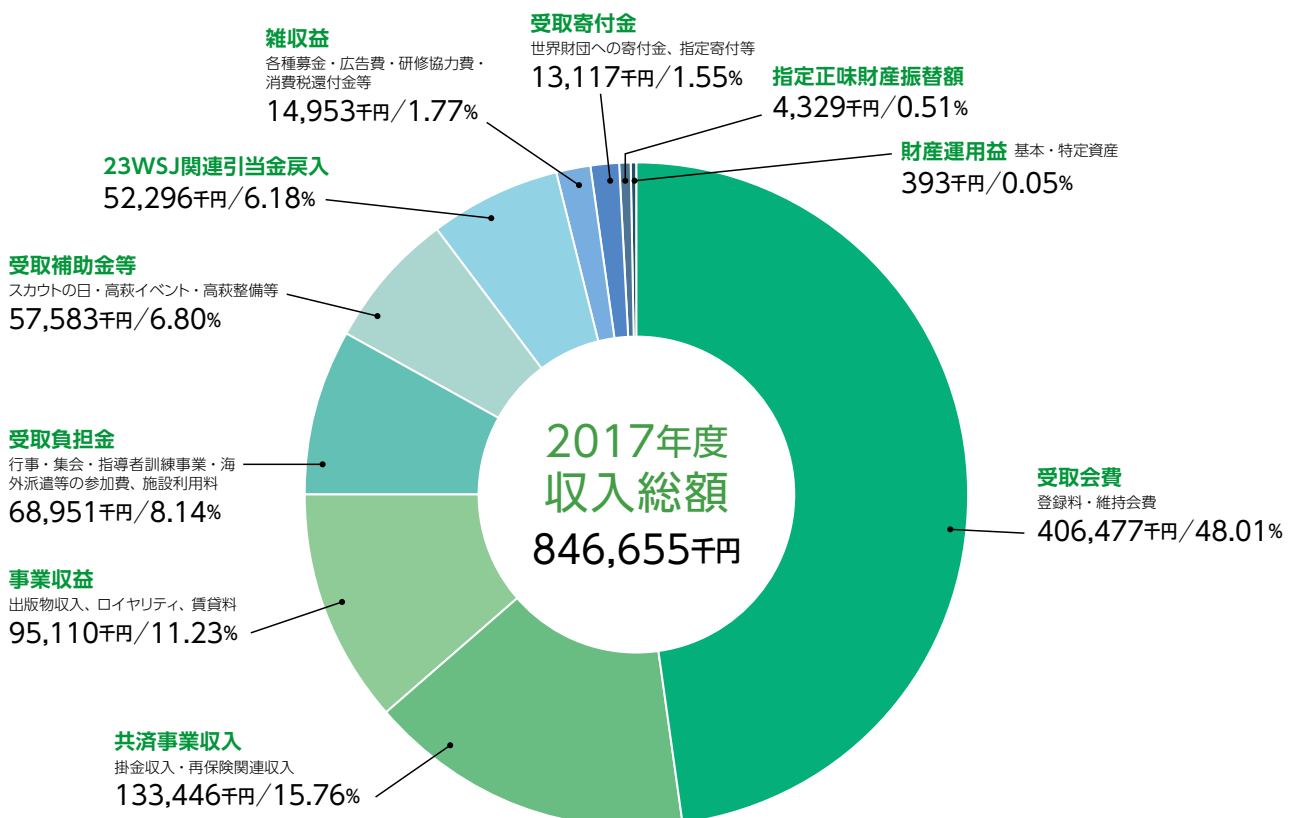
【収入】

■ 受取会費

収入のおよそ半分にあたる4億円強が受取会費です。この約8割:3億3,128万円ほどがメンバーからいただく登録料、約2割:7,518万円はこの運動を継続的に支援して下さる方々からいただく維持会費です。維持会費は、全国の47都道府県連盟で集めていただいた総額が約5,835万円、日本連盟で集めた総額が1,683万円です。維持会費には単発的な寄付も一部含まれています。

■ 共済事業収入

一般的なスポーツ障害保険等よりも安価でかつ保障内容がよい当連盟独自の共済制度を、文科省の認可を得て運営しています。この制度への掛金収入が8,726万円、再保険関連収入が4,619万円ほどでした。再保険関連収入は、共済からの保険料の大きな支払いが生じた際に備えてかける再保険からの収入や、年度をまたいで支払予定となるもの



について前年度末から繰り越しておいたものなどが主なもので、ほぼ支出と対応した収入ということになります。

■ 事業収益

続く事業収益は出版物の販売収入やスカウト用品のロイヤリティ(=ライセンス料)、施設の賃貸料等で、あわせて9,511万円ほどです。総収入のおよそ11%に相当します。

■ 受取負担金

各種行事・会合、指導者訓練事業、海外派遣などの参加費や、野営場等の施設利用料です。この年度では、アメリカジャンボリーを含む海外派遣事業の参加費2,396万円、日本ジャンボレットの参加費2,058万円、全国大会を含む指導者研修事業の参加費1,272万円が大きなところでした。ジャンボリークラスの大事業がある年は、この受取負担金が大きく膨らみます。

■ 受取補助金等

高萩市からの高萩スカウトフィールド整備補助金5千万円が補助金等全体の8割以上の大きな割合を占めています。高萩 SF はもともと大和ハウス工業から寄付を受けた82万坪の土地を、スカウトのための野外活動のフィールドならびに指導者訓練の場として有効活用するため、同社からさらに建物の寄贈を受け、また3か年にわたり地元高萩市からの補助金をいただきながら整備を進めてきました。2017年度で大規模な整備をおおむね終え、また同年山中野営場を閉場し、野営用具等の高萩

への引継ぎも完了し、その機能を引き継ぐ態勢を整えてきました。今年度からは大きな補助金を受けず、桜の苗木の寄付を受けて手作りの植樹作業による整備を進めて野営場の魅力を高めるほか、各種研修事業や野外活動プログラムの提供などについて特別委員会を設けて計画を進めていくことにしています。

補助金で高萩関連に次いで多いのは、セブン-イレブン記念財団からのスカウトの日への助成金550万円となっています。

■ 23WSJ 関連引当金戻入

世界ジャンボリーを契機とした全国的な広報事業や世界会議関連などに用いるもので、2017年度は5,230万円です。

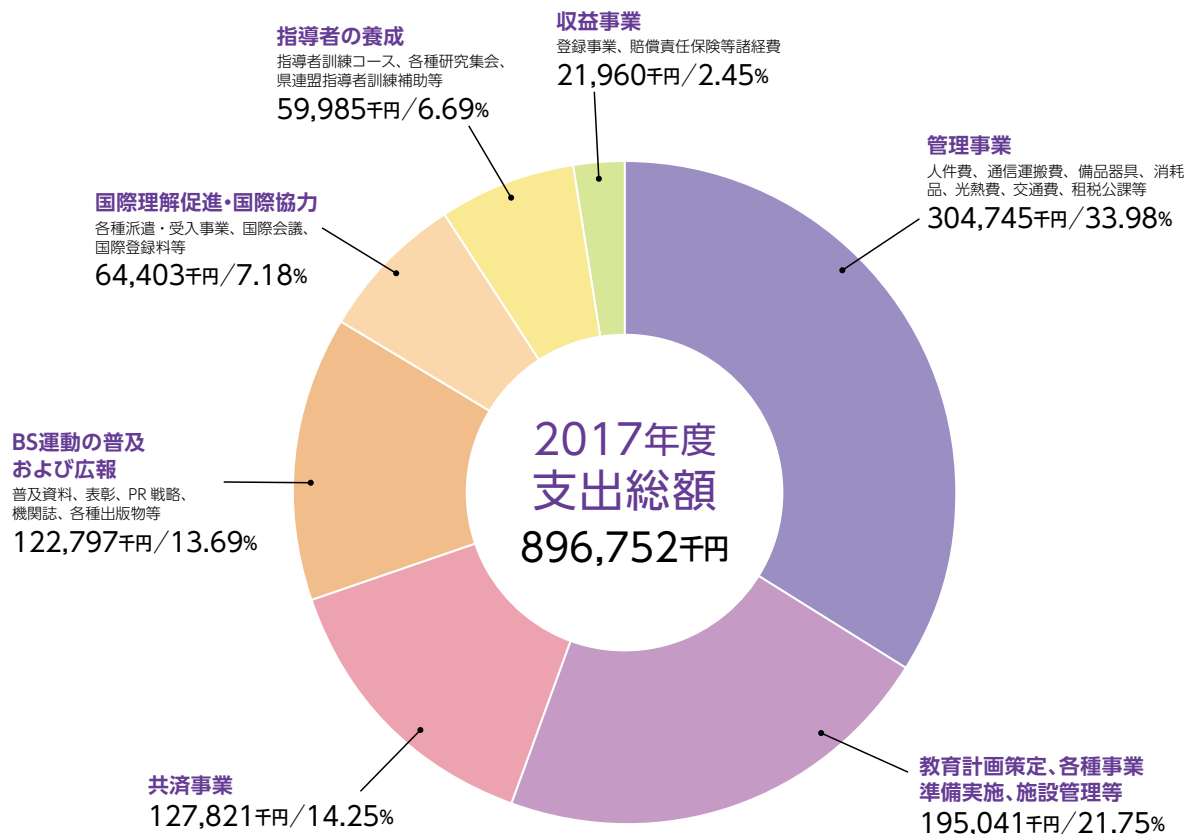
【支出】

■ 管理事業

支出全体の約34%で、そのおよそ半分(全体の約19%)が人件費です。人件費は、日本連盟の行う教育事業ほか全業務にかかる職員の給与ですが、共済事業にかかわる部分(全体の約1%)は共済事業に割り振られています。現在、日本連盟の正職員は25人。今年度は一部業務のアウトソーシングも進めながら人件費を抑えつつ、より良い成果を出していけるよう、さまざまな業務の改善等に着手しています。

■ 教育計画策定、各種事業準備実施、施設管理等

あらゆる教育系、運営系の会議、イベント等にかかる費用です。これ



らの事業を実施するにはもちろん人件費もかかりますが、その費用は他の項目同様、左記の管理事業の中の人件費にまとめられています。ここで計上されているのは、教育プログラムの開発や事業計画にかかわる委員会の構成員の旅費などをはじめ、スカウト会館や那須、高萩の施設管理費のほか、富士特別野営、日本ジャンボレット、RCJ 野営大会、山中野営場閉場式などの事業の諸費用、17NSJや13NAなど次年度以降の事業の諸準備も含まれています。

■ 共済事業

収入の項で紹介した共済事業にかかわる支出で、全体の約14%強です。最初のグラフの共済事業収益と比較すると、赤字にはならないとこでほぼ入ってきた分が支出されていることがわかります。

■ BS 運動の普及および広報

前年度に計画し2017年度に推進したPR計画の4千万円(全体の約4.5%)、機関誌スカウティングやポスター・パンフレット類、各種出版物、そして各種表彰にかかる費用を含めています。

このうちスカウティング誌の費用は4,276万円ほどですが、全国への郵送料と発送委託作業費1,649万円、印刷費1,285万円、編集レイアウトや入校データ作成など外部委託製作費991万円が主なコストとなっており、今後デジタル版への移行なども含めたコストダウンを進めながら、有益な情報をより広く早くお届けする方法などを検討しています。

■ 国際理解促進・国際協力

アメリカジャンボリー派遣をはじめとするスカウトの各種海外派遣、指導者研修、諸会議等への派遣事業および海外からの受入事業、WOSMへの国際登録料などをあわせたものです。

国際登録料は各国の経済水準によって算定基準が4つのカテゴリーに分かれており、日本連盟は最も高いカテゴリーに入っています。2017年度の支出は約1,699万円で、加盟員1人あたりおよそ170円でした。

■ 指導者の養成

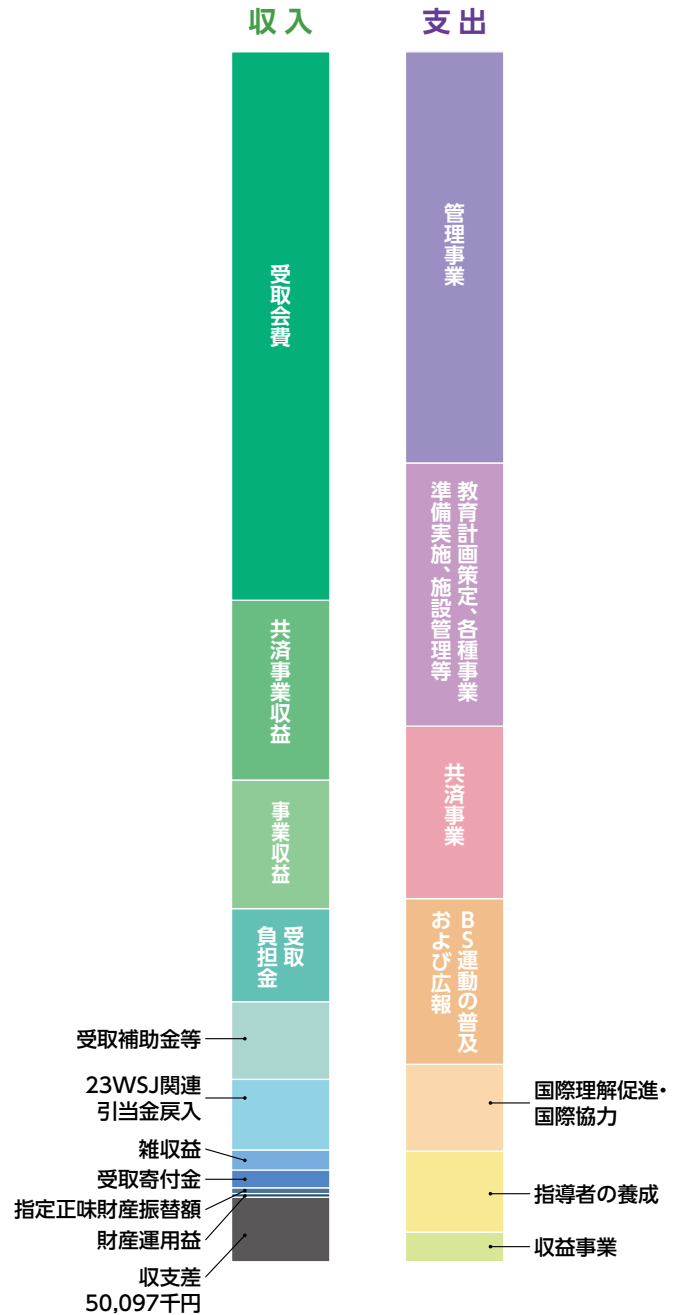
総額およそ6千万円のうち、各都道府県連盟が開設する指導者訓練への補助として拠出しているのが4,242万円と大きな割合になっています。日本連盟で開催する指導者訓練コースにかかる費用は276万円ほど。全国大会の費用も指導者養成の一環としており、当該年度は768万円ほどの支出となっていますが、もちろんそれらの多くは参加者負担金で賄われています。

■ 収益事業

不動産賃貸、ロイヤリティなどにかかる諸経費を含めていますが、その中で最も大きなものは、万一の場合に備えた賠償責任保険の費用で、これは全体の1%強にあたる922万円ほどとなります。

【まとめ】

右の帯グラフは、ここまで述べてきた収入と支出の各項目の金額を基準に、それぞれの割合を見ただけのよう並べたものです。収入と支出の項目がそれぞれ同項目対応しているわけではないので、収入のどこが不足、支出のどこが過多、というようなことは一概には言えません。



左下には収支差として約5千万円の赤字がありますが、これを健全化するには、当然ながら収入を増やし、支出を減らす双方向の努力と工夫が必要です。

日本連盟では今年度、財務・団支援・組織拡充、社会連携・広報の運営系3委員会の連携を強め、新たな寄付等の獲得や、加盟員減少を食い止める中途退団抑止の取り組みにも努めていくことにしています。また本部移転により不動産収入増を図るなど、資産の有効活用にも乗り出しています。

財政の健全化により、魅力ある教育プログラムの開発、指導者の養成、各種イベントの展開などに、より多くの力を注ぎ、スカウト運動の本来の「価値」を高め、より多くの理解者や支援者を得ながら、社会に有用な青少年を育成していけるよう、100周年に向け全力で取り組んでまいります。

スカウティングとウッドクラフト⑥

中野忠八『テント生活の仕方』と『ボーイスカウト訓練の大綱』で読む

日本連盟創立直後のウッドクラフト教育



リンツターの作り方(『テント生活の仕方』より)



『テント生活の仕方』より

イギリスのスカウト運動に強い関心をもっていた京都の中野忠八は、1915(大正4)年に少年団「京都少年義勇軍」を設立し、翌年、13人の少年とともに現滋賀県大津市小松の琵琶湖畔雄松崎にテントを張り、キャンプを行いました。

これがわが国で初めての「スカウトキャンプ」とされています(1911年、当時学習院院長でありスカウト運動に注目していた乃木希典が、神奈川県片瀬海岸でボーイスカウト流のキャンプを行いました。これは学校教育の一環でした。また、1924年に福島県猪苗代湖畔で少年団日本連盟の「第1回全国野営」が開催されましたが、これは基本的には指導者向けのキャンプでした)。

今月は、まだキャンプ生活というレクリエーションや教育が普及していかなかった時代に刊行された『テント生活の仕方』(1924年刊)とその翌年刊の『ボーイスカウト訓練の大綱』から、1922年日本連盟創立直後の野外教育の指針を振り返ってみましょう。【敬称略】

(中野の著作では、「ボーイ、スカウト」「ボーイ・スカウト」「ボーイスカウト」という表記が混在しています。この今号連載では、より多い「ボーイスカウト」に統一しました)

『テント生活の仕方』を読む

1924年、中野は一般向け解説書として『テント生活の仕方』を著しました。

「一、天幕生活」で、『備へよ常に』とはボーイスカウトの標語である。キャンプを行ふにも周到な用意を欠いてはならない』で始まる本書は、以下「二、キャンプの種類」「三、準備の品々」「四、実行」「五、いろいろの注意」と続きます(詳細は右ページに紹介した「原本」をご参照ください)。

今でこそ、このようなガイドブックや情報はあふれていますが、当時は、類書は「絶無だ」と著者は書いています。キャンプのノウハウが主な内容ですが、スカウト運動の目指す人格形成を視野に入れた記述が基調です。一例として「キャンプ・ファイアー」の項では、

キャンプの夕食の片付いた後といふものは、

如何にも落ち付いた心持ちになる。ボーイスカウトでは、キャンプの夜こそ最も楽しく、且つ意義ある時間であつて、団員と指導者との間の真の人格的交渉は最も濃く行はるる時である。

と述べています。そして、最後の章を「六、キャンプの価値」と題し、以下のようにこの著作を終えています。

自然より直接に恩恵を享受し、その威厳に打たれ、その崇美を礼賛し、文明が齎すもろもろの墮落に対する反撥力を養ひ、人類進化の理法に合致せしめる所に、キャンプ其物の価値があるのではなからうか。少年義勇軍などでやるキャンプの訓練的価値、人物をつくる上にとどれ程それが偉大であるかの如き、教育上の価値については、今更論ずる迄もあるまい。



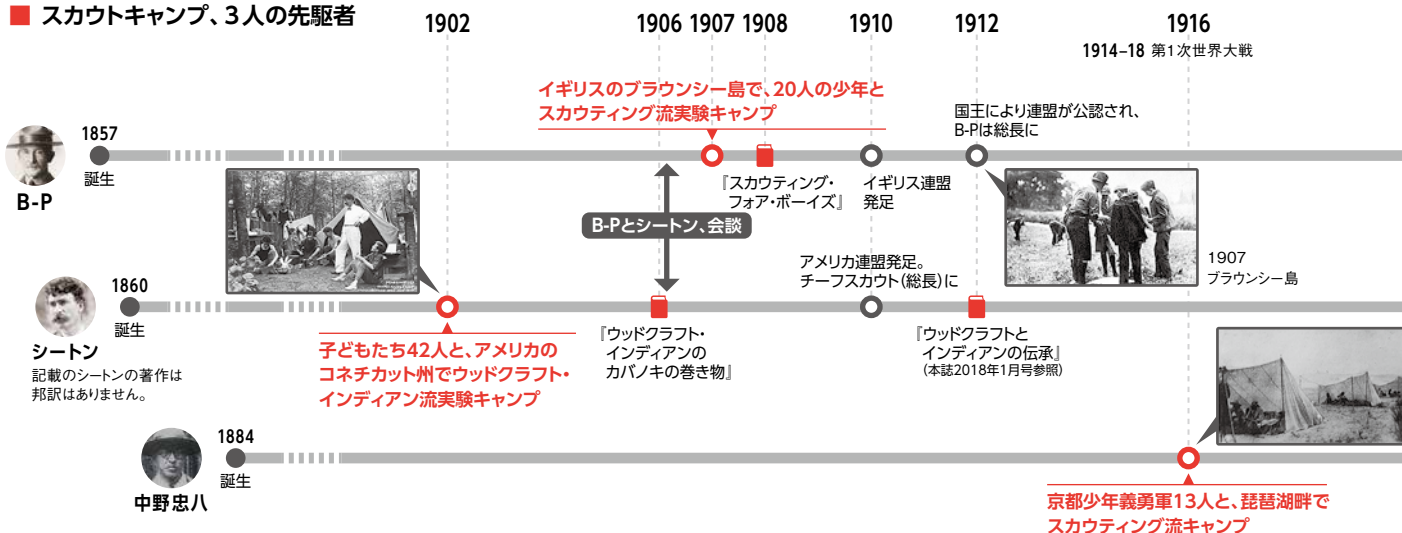
中野忠八
(なかの・ちゅうはち)
1884(明治17)年、京都市生まれ。1915年、京都少年義勇軍(京都のボーイスカウトの前身)を結団。16年、琵琶湖畔でキャンプを行った。

1924(大正13)年、少年団日本連盟名誉理事となる。以後、世界ジャンボリーや多くの国際会議に参加。国内でも連盟の重鎮として指導者養成などで活躍した。戦後のスカウト運動の再建にも大きく貢献したが、1949(昭和24)年、病没。享年66。



初野営の地は…
京都少年義勇軍が初キャンプをした雄松崎には、記念碑が建っています。滋賀連盟草津第3団のHPに、その訪問記がリンクされ、地図や画像も公開されています。

■ スカウトキャンプ、3人の先駆者



『ボーイスカウト訓練の大綱』 を読む

少年団日本連盟発足の3年後、1925年、連盟の地方委員・指導審議委員となった中野は関係者と一般に向けて、スカウト運動の解説書を著しました。まず「ボーイスカウトの目的」を、

要するに少年に対して、彼等の生涯を喜びに満ちたものたらしめ、更らに其喜びを他人——即ち人類全般——に頒かつに在りといふ事が出来る。

とし、ボーイスカウト訓練の主要部分を、「一、スカウトの自覚」「二、一定の規範」「三、班制教育」「四、進級制度」「五、技能章制度」「六、野外訓練」「七、奉仕精神」「八、遊戯」の「八大系」として説明しています。「規範」とは「宣誓」「掟」「標語」を守ること。「遊戯」とは今の「ゲーム」のことです。

詳細は「原本」を読んでいただくことにして、今連載では「野外訓練」から一文を引用・紹介させていただきます。『テント生活の仕方』と同様に、野外体験が信仰心を含めた人格の育成に有用なことを述べたあと、

野外作業は多種、多方面に亘つて居る。天幕生活、森林生活(ウッド・クラフト)、自然科学の研究、漕舟釣漁、測量、登山、探検等であつて、[中略(本誌編集部)] キヤンプはスカウトの最も悦ぶ所である。

野外訓練は指導者とスカウトを最も接近せしむるものであるから、指導者の人格如何は少年の訓育に至大の影響を来すことに注意せねばならぬ。スカウトも亦野外に於て、最も赤裸々に彼等の性質を曝露するが故に、指導者の之れを助長すべきか、矯正すべきかを知り、適当

なる指導を施すべき絶好の機会である。

とスカウトが進んで参加できるキャンプを心掛けること、リーダーとしての心構えを述べて、この項を終えています。

なお、目次ではこの「八大系」は、「部隊教練」を加えて「指導の精神と訓練の九大綱」となっています。「部隊教練」は多数のスカウトを統率する必要がある場合のために教えるのであって、軍隊教練の予備や軍隊教育ではないと、付け加えています。

その後本書で中野は、「学校教育との関係」「宗教との関係」「国家主義と国際主義」という重いテーマについて述べ、スカウト

運動が「国際的倫理運動」であるとしています。

『テント生活の仕方』より



中野にはゲーム関係など多くの著作がありますが、今号の2作からは、野外を教場として少年少女の人格育成を図ることがスカウティングの基本であると知ることができるといえます。それは、現在も変わりません。

中野はベーデン・パウエルだけでなく、同時代のシートンの教育法にも注目していました(一部は右に紹介した『先哲のおしえ』で読めます)。仏教徒であった中野は、自然とは唯一の神が創ったものというより、自然の中に広く神を認める信仰にひかれたのかもしれない。これは、さまざまな信仰がある日本のスカウト運動の発展に大いにプラスとなったのではないのでしょうか。もちろん、ウッドクラフト教育を基盤とするスカウト教育法がグローバルな特性を備えていたからでもあります。

参考のためにB-P、シートン、中野の業績を並べてみました。

本連載は、読者が今でも入手できる資料を取り上げています。

引用書



『テント生活の仕方』

中野忠八／1924／創文社発行

キャンプ生活のスキルと効能を紹介。のちに『野営生活の仕方』などと改題した版も出た。絶版だが、国立国会図書館のサイトからダウンロードできる。



『ボーイスカウト訓練の大綱』 少年団日本連盟パンフレット第六輯』

中野忠八／1925／少年団日本連盟発行

スカウト運動の目的と指針を解説。本文21ページという簡潔で的確な記述となっている。絶版だが、国立国会図書館のサイトからダウンロードできる。

参考書



『先人にまなぶ』『先哲のおしえ』

鈴木國夫編纂／2016／ボーイスカウト日本連盟発行／定価1,400円(税込)

中野忠八はもとより、中村知など、日本のスカウト運動を支えてきた中心的指導者8人の履歴や遺稿を収録。ボーイスカウトエタープライズで販売中。

原点に帰る本



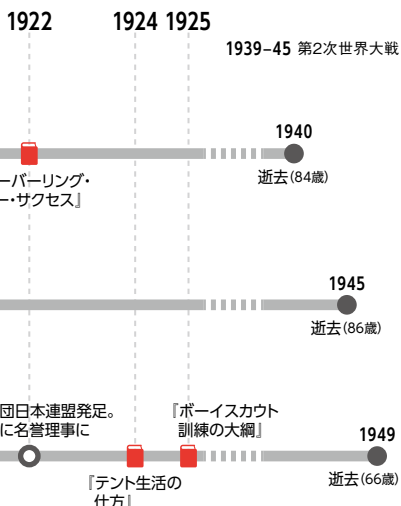
『冒険図鑑』

『野外で生活するために』

さとう藍・文／松岡達英・絵／1985／福音館書店発行／定価1,600円(税込)

このスカウティング誌のウッドクラフト連載では、自然観察やキャンプ生活、危機管理など野外活動の具体的なスキルにはほとんど触れていません。しかし、スキルを身につけることは、スカウトにとって野外生活が楽しくなるだけでなく、「行うことで学ぶ」というスカウティングそのものになるともいえるでしょう。ウッドクラフトの原点を確認できる「現代の古典」となった一冊です。

「少年団日本連盟」は1935年に「大日本少年団連盟」となり、第2次世界大戦のもと41年には解散しました。スカウト運動は戦後再建され、49年には「ボーイスカウト日本連盟」が発足。次号では、再びスカウト精神を取り戻した時期のウッドクラフト教育とスカウティングについてたどってみましょう。



待望の新刊!

『日本の少年団運動』

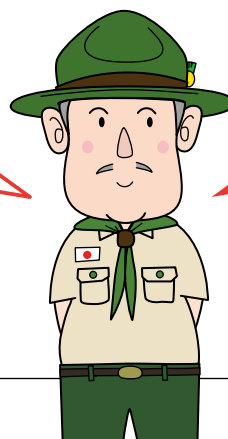
—資料に見る黎明期のスカウティング—



編著・五十野和男／監修・小町國市、若宮広和／2018／日本スカウト切手・メモリアクラブ発行／頒布価格 CD付き 3,000円(税込)

連盟創立100周年を迎える、日本のスカウト運動の黎明期からの活動を、写真・書籍・絵はがき・書簡などから読み解く「目で見えるスカウト運動史」。

ご購入とお問い合わせは発行もと事務局へ
smcj@outlook.jp



海での活動について

～海上保安庁から3つのお願い～

118!



今年も、夏休みを前に、スカウトの皆さんにとって、海での活動が楽しみな季節がやってきました。

そこで、海上保安庁から、スカウト、指導者、保護者の皆さまに、海での事故を防止するための「3つのお願い」をさせていただきます。

1つめは、「ライフジャケットの常時着用」です。

海での事故を防止するためには、何より、普段からの「そなえ」が必要です。

平成29年の船舶からの海中転落のうち、ライフジャケット着用者の死亡率は9パーセントであり、非着用者の死亡率は49パーセントと、約5倍となっています。

このように、ライフジャケット着用の有無が、生死を分ける大きな要因の1つとなります。

また、万が一海に転落した場合は、体力を使わず、浮いて助けを待つことが重要です。

もしも、ライフジャケットを着用せずに落水した場合などは、身近にある浮く物を投げ入れ、落水者が浮力の確保をできるようにしてください。

2つめは、「連絡手段の確保」です。

万が一、海に落ちてしまった場合でも、身体に合った適切なライフジャケットを正しく着用していれば、浮いて助けを待つことができます。

しかし、せっかく浮いて助けを待たせていても、事故が起きたことを知らせる手段がなければ、助けを呼ぶことができません。

そのためには、防水パックに入った携帯電話やスマートフォンを携帯する、一人では行動せず、必ず複数人で行動するなど、確実な連絡手段を確保していただくことが重要です。

3つめは、海難の際の緊急通報電話である「118番の有効活用」になります。

ライフジャケットを正しく着用し、確実な連絡手段を確保したら、速やかに救助要請をすることが大切です。

海上保安庁では、東京の本庁および全国11の管区にある運用司令センターにて、24時間365日、全国共通の緊急通報である局番なしの「118番」の受け付けを行っており、いざ海難が発生した場合は、巡視船や航空機で救助に向かう体制を整えています。

万が一、海難事故が発生した場合は、すぐに「118番」に連絡し、救助要請を行ってください。

以上、「自己救命策確保の3つの基本」を覚えていただき、今年も楽しい活動を行っていただければと思います。

東京海上保安部

警備救難課 救難係長 村瀬 剛徹
(千葉県連盟千葉第18回ベンチャー隊長)

2018
No.727

9

SCOUTING

次号予告 次号の「スカウティング」は、2018年9月中旬発行

特集 第17回日本スカウトジャンボリー

9月号の特集は17NSJ。全国から集まる13,000人の仲間たちが自然豊かな能登で過ごす大会の様子をお伝えいたします。なお、ジャンボリー終了後の編集・作成になりますので、発行は9月中旬の見込みです。

なんでも応募先

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟事務局『スカウティング』投稿係
〒113-8517 東京都文京区本郷1-34-3
電話 03-5805-2903 FAX 03-5805-2908 Eメール scouting@scout.or.jp

投稿規定／本誌では読者の皆さまからの投稿を常時受け付けています。投稿が掲載された方には、掲載誌と記念品をお送りしています。投稿は文字数400字・写真3枚を目安にしてください。新聞掲載記事は、新聞名、掲載日を明記してください。なお、お送りいただいた写真や新聞記事は原則として返却しませんのでご了承ください。お送りいただいた投稿は、抜粋しての使用や一部を編集させていただく場合があります。また掲載できない場合もあります。あらかじめご了承ください。たくさんのお投稿をお待ちしております。

日本連盟ホームページ <https://www.scout.or.jp>

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

『スカウティング』2018年7月号 No.726 平成30年7月1日発行（奇数月1日発行）

発行 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 〒113-8517 東京都文京区本郷1-34-3 <https://www.scout.or.jp>

「スカウティング」は、全国のボーイスカウト指導者（隊指導者、団委員、スカウトクラブ構成員、地区・県連盟・日本連盟役員）に1冊お送りしています。加盟登録住所にお送りしますので、住所の誤り、変更がある場合は同回の登録住所変更の手続きをお願いします。登録システムに伴い、①4月～8月に新規、追加登録申請が承認された場合：5月号から当該月号を同封にて送付（例：8月承認の場合は9月号に5月号、7月号を同封）②9月～翌年3月に登録申請が承認された場合：11月号から当該月号を同封にて送付。9月以降の「追加登録」で、5月号～9月号をご希望の場合は、日本連盟事務局社会連携・広報部にご相談ください。バックナンバーの在庫がある場合はお送りいたします。発行月の前月10日以降は、送付作業工程に間に合わないため、当該月号は次号に同封されます。なお本誌の購読料は、登録料に含まれています。上記以外の方も別途購読いただくことが可能です。詳しくはボーイスカウト日本連盟ホームページ <https://www.scout.or.jp> から、スカウティング誌のページをご覧ください。
©公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 2017 写真、イラスト、記事のコピー・複製・転載を希望される場合は、日本連盟事務局社会連携・広報部（TEL：03-5805-2903）までご連絡ください。

SCOUTING

デジタル配信しています！



機関紙「スカウティング」のデジタル版(PDF)を、読者の皆さんを対象に配信しています。デジタル版は、文字もそのままコピーできますので、さまざまな資料に、より簡単に引用できるほか、タブレット端末などに入れ、いつでも読むことができます。ぜひご利用ください。



ID: scouting-magazine

PASS: sonaeyotuneni

URL: <https://www.scout.or.jp/scoutingmagazine/issue/>

この夏一番の思い出



思い出の記念写真はインターネットから閲覧・購入ができます。

ライブフォトイベント で 検索

または



QR コードからチェック!

LIVEPHOTO

<http://www.livephoto.jp>

The International Air Photo Inc.

国際航空写真株式会社

東京都足立区千住中居町 7 番 12 号

TEL: 03-3882-3181 FAX: 03-3882-3217

Scout Shop

<https://www.scout.or.jp/scoutshop/index.html>

17NSJ

ドライTシャツ (ブルー/レッド/オレンジ)

価格 / 1,000円(税込)

素材 / ポリエステル100%

大会ロゴ入りのドライTシャツ

- 吸汗・速乾性に優れたメッシュ素材
- UVカット機能もあります

サイズ	身丈	身巾	肩巾	袖丈	品番(ブルー)	品番(レッド)	品番(オレンジ)
S	65	47	44	20	71101	71111	71121
M	68	50	46	21	71103	71113	71123
L	71	53	48	22	71105	71115	71125
LL	74	56	50	23	71107	71117	71127



レッド



オレンジ

ブルー

17NSJ大会記念品の発売

この他、会場限定品もありますので、お楽しみに!!

17NSJ

大会ロゴ缶プレート

品番 / 71075

サイズ / 直径 150mm

価格 / 900円(税込)

バッジとしてもご使用いただけます



17NSJ

LEDライトキーホルダー

品番 / 71035

サイズ / 59×35×12mm

価格 / 400円(税込)

SCOUTING 2018/7 726

スカウトイング
昭和38年12月15日 第3種郵便物認可
平成30年7月1日発行(奇数月1日発行)

発行 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
〒113-8517 東京都文京区本郷1-34-3
電話 03(5805)2561(代)

定価 ¥200(税込)
郵便振替 00130-1-56119
口座名義 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

4 931187 653251



一般財団法人
ボーイスカウトエンタープライズ
Boyscout Enterprise

- スカウト用品ご購入の際は、県連盟または、お近くのスカウト用品取扱協力店にてお求めください。
- 本ページ掲載商品は直接注文でもお求めいただけます。お支払いはボーイスカウトカード (BSカード) または代金引換となります。日本連盟ホームページの“メンバー向け情報” → “ダウンロードセンター”より注文書をダウンロードのうえご注文ください。